

行動する経済同友会

「めざせ、起業大国ニッポン！」 ——イノベーションは個と知の完全燃焼から——

同友会起業フォーラム2006、始動



シンポジウム
I・II

同友会起業
フォーラム
2006

カレッジ
ベンチャー
フォーラム



Contents

Interview

新事業創造推進フォーラム
飯塚 哲哉委員長に聞く

▶ P.03

Act 1

同友会起業フォーラム2006
シンポジウム I・II

▶ P.05

Act 2

同友会起業フォーラム2006
カレッジベンチャーフォーラム

▶ P.08

Next Step

同友会起業フォーラム
メインプログラム

▶ P.09

21世紀の日本経済の真の活性化のためには、数多くのベンチャー企業が生まれ、成長する社会が必要である。ベンチャー企業の新しい価値創造による事業創出や市場開拓は、新たな需要を喚起し、多くの雇用を生み出す力と可能性を持っている。経済同友会は、北城恪太郎氏の代表幹事就任以来、新事業の創造に関する取り組みを行ってきた。本年度は「新事業創造推進フォーラム」が中心となって、社会人・学生の双方に対し、起業に挑戦する主体的な個人を育成・支援する活動を積極的に実践している。その活動をレポートする。



日本経済が持続的発展を遂げていくには、優れた能力を持つ個人のより多くがフェアなリスクとリターンを前提に完全燃焼し、多彩な分野に新しい価値を生み出していくことが重要だ。同友会起業フォーラム2006を企画・運営する「新事業創造推進フォーラム」の飯塚哲哉委員長に話をうかがった。

新事業創造に関する 推進・実践活動を集約

飯塚 哲哉氏
新事業創造推進フォーラム
委員長

2006年度 新事業創造推進フォーラム正副委員長 (敬称略)

委員長

飯塚 哲哉
(デザインエレクトロニクス 取締役社長)

副委員長

佐藤 俊和
(ジョルダン 取締役社長)

澤田 秀雄
(エイチ・アイ・エス 取締役会長)

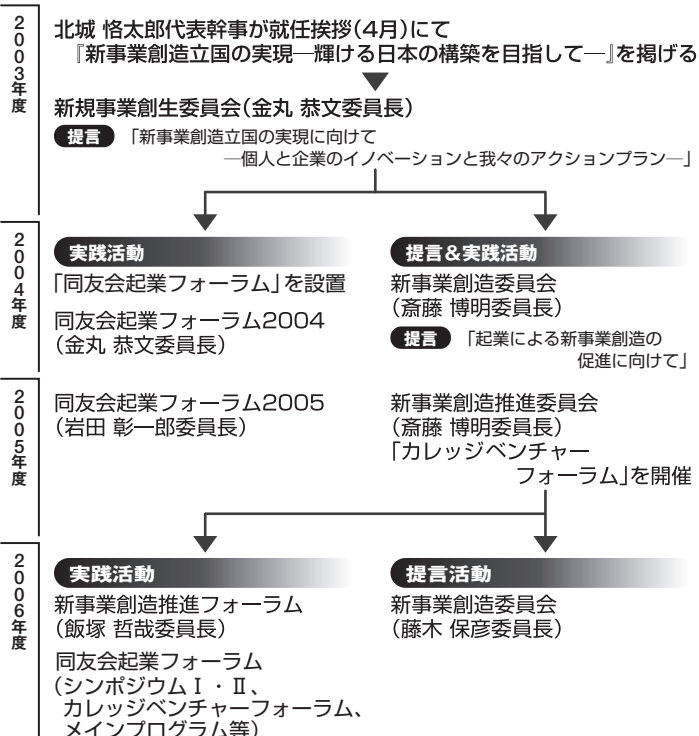
中原 隆志
(キャセイ・トライテック 代表取締役)

中村 紀子
(ポピンズコーポレーション 代表取締役)

矢内 廣
(びあ 取締役会長兼社長)

和田 成史
(オービックビジネスコンサルタント 取締役社長)

経済同友会の新事業創造に関する取り組み



経済同友会では、2003年4月、北城格太郎代表幹事が就任挨拶の中で掲げた「新事業創造立国」の実現に向けて、これまで様々な取り組みを行ってきました。

2003年度は金丸恭文委員長のもとで「新規事業創生委員会」が発足、翌年発表した提言の中で、提言活動にとどまることなく、継続的かつ具体的なアクションを行うことの重要性を指摘し、シンポジウムとメインプログラム(起業塾)を活動の柱とする「同友会起業フォーラム」(04年度金丸委員長、05年度岩田彰一郎委員長)が設置されました。一方で、政策委員会として2004年度「新事業創造委員会」、提言実践推進委員会として2005年度「新事業創造推進委員会」(いずれも斎藤博明委員長)が設置され、提言の発表および大学生を対象とした「カレッジベンチャーフォーラム」の実施等の活動を展開してきました。

そして、2006年度は北城同友会にとって総括の年にあたります。そこで、代表幹事の意向もあり、新事業創造の推進に関して提言の総まとめを行う「新事業創造委員会」(藤木保彦委員長)と、私が委員長を務め、新事業創造に向けたさまざまな活動を行う「新事業創造推進フォーラム」という形に再編されました。

イノベーションを支える 仕組みの強化へ

今年度は、従来の方針を踏襲しながらも、日本のイノベーションを支える仕組みのさらなる強化に向けて、新たに3つの柱を付け加えていきたいと考えています。

その第1はものづくり、すなわち、ハードウェアと関わるビジネス領域を新事業化し、どう推進し

かという話になりがちですが、付加価値の源泉という観点から、スマイルカーブという構造の中で、日本の産業界としてどこに注力すべきかの議論も大切になります。

第2に、女性の起業家に光を当てようと思っています。少子高齢化という時代には、女性のエネル

ていくかの模索です。ものづくりという、生産ラインをどうする

ギーの活用も重要です。男性と女性の双方が、公平に社会の変化を肌で感じられる社会が望ましいと思います。

第3はスピンオフ・ベンチャーの議論です。大企業の集中と選択が進む中、必ずしも潤沢なリソースを配分できていないが、付加価値創造には欠かせない“非集中分野”の事業があります。大企業にじっとしていれば成果を出せるという時代ではなく、人材の有効活用を視野に、この分野の成長に向けた議論も行いたいと思います。

大企業とベンチャーが イノベーションの両輪

この十数年、米国では「中央研究所黄金時代」のリニアモデルが崩壊し、ハイリスク化するR&Dの担い手として大学とベンチャーが重要になってきました。それに対して日本のイノベーションを支える仕組みは、大企業の中だけでR&Dを行い、それを大企業自身の事業にしていく「片肺飛行」の

その成功したところからM&Aあるいはライセンス契約するなど、成果を正当な形でフィードバックしていく仕組みを構築しなければ、世界のパラダイムシフトから日本は取り残されていくだけです。

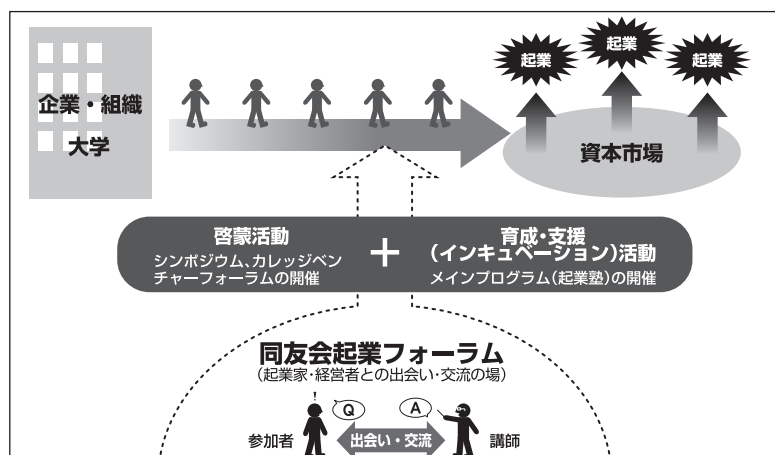
私自身に関して言えば、当社が急成長できたのも大企業と組めたからでした。そうした経験も伝え

状況です。むしろ、ベンチャー企業にトライ&エラーを行わせ、

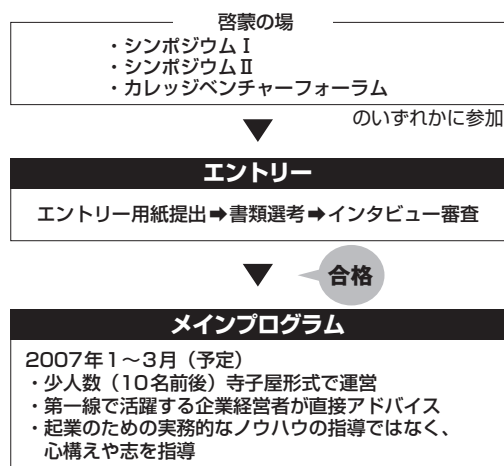
ながら、イノベーションの一方の車輪という役割が大学とベンチャーにあることを社会に訴求していきたいと思います。

最後になりましたが、シンポジウム等に出席して感じたのは、「起業に対する思いが熱くなってきている」ということです。個人金融資産の中で非預貯金の割合が少しずつ増えているなど、確実に日本の環境や文化も変化しています。そうした起業環境や、シンポジウムに集まった人々の熱意などを考えると、今後のベンチャーの発展に期待が持てる気がしています。

同友会起業フォーラム概念図



同友会起業フォーラム2006の流れ



起業の啓蒙を通して 個人の意識改革を促進

Act 1

同友会起業フォーラム2006

シンポジウムⅠ・Ⅱ

プログラム

シンポジウム
Ⅰ
10月14日(土)

「次代を担う新事業創造を」

—挑戦する個人が活躍できる社会の構築を目指して—

<パネリスト>

飯塚 哲哉氏／金丸 恭文氏／斎藤 博明氏

<コーディネーター>

五十嵐 伸吾氏 九州大学大学院 経済学府・産業マネジメント専攻（ビジネススクール）助教授

シンポジウム
Ⅱ
11月4日(土)

プレセッション：「激動の時代はベンチャーが面白い」

—ザインエレクトロニクスの苦節15年—

<パネリスト>飯塚 哲哉氏／米倉 誠一郎氏 —橋大イノベーション研究センター 教授

分科会 セッションA： 「新しい“ものづくりニッポン” の創造をめざして」

<パネリスト>

荒川 亨氏／飯塚 哲哉氏／酒井 清氏／
山田 真次郎氏

<コーディネーター>

前田 昇氏 大阪市立大学大学院 教授

分科会 セッションB： 「チャレンジする起業家を 応援しよう！」

<パネリスト>

木村 剛氏／澤田 秀雄氏／中村 紀子氏／
新浪 剛史氏

<コーディネーター>

米倉 誠一郎氏

シンポジウムⅠ

起業の形は多種多彩 “大義”を持って挑戦を

10月14日、東京・コンファレンス スクエア エムプラスで開かれた「同友会企業フォーラム2006 シンポジウムⅠ」には、約120名が参加。コーディネーターとして五十嵐伸吾氏、パネリストとして金丸氏、斎藤氏、飯塚氏という新事業創造関連の歴代委員長3氏が出席した。

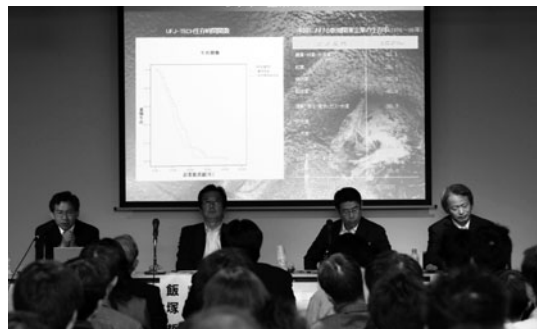
北城代表幹事の挨拶に続き、パ

ネルディスカッションではテーマを3つの論点から討議。第1の論点「なぜ『新規事業創造なのか?』」では、「社員時代のシリコンバレー駐在が刺激に」（飯塚氏）、「B・ゲイツなど同世代のトップランナーと20代のうちに出会えたことが転機に」（金丸氏）、「大学時代、『自分で生きること』を正面から考え、事業計画を練った」（斎藤氏）といった各氏の起業の動機、経緯などが紹介された。

第2の論点「『新事業創造立国』の実現に向けて」は、起業後のギャップ、課題等について討論が進行。資金や人材確保の難しさ、信用リスクなどが指摘された。

第3の論点「課題解決への具体

的方策」では、「フェアな競争の必要性」（飯塚氏）、「起業前の『ワンクッション転職』（金丸氏）、「動機を磨くことの重要性」（斎藤氏）などの意見が示され、質疑応答が行われた後、終了した。



起業経緯は異なるものの「起業には、スキルと大義が不可欠」ということで意見が一致した。

シンポジウムⅡ

苦勞を乗り越えるほどに ベンチャーは面白い！

シンポジウムⅡは、11月4日、東京・日本工業倶楽部で実施され、約250名が参加した。

プレセッションでは、大企業での経験を経て40代で起業した飯塚氏と、イノベーションを核とする企業の経営戦略と組織の歴史的研究が専門の米倉誠一郎一橋大学教授が「激動の時代はベンチャーが面白い～ザインエレクトロニクスの苦節15年」をテーマに対談。起業の動機、起業時の心構え・苦勞、成功へのカギ、ベンチャーの役割などについて意見が交わされ、「苦勞も多いが、それ以上に自分を発見できる面白さがあるのがベンチャー」（飯塚氏）とエールを送った。

そして、分科会では、「新しい“ものづくりニッポン”の創造をめざして」（セッションA）と「チャ

レンジする起業家を応援しよう！」（セッションB）という2つのテーマが用意され、参加者は希望するセッションに出席した。

技術系ベンチャーに焦点を当てたセッションAは、パネリストとして荒川亨氏、飯塚氏、酒井清氏、山田眞次郎氏が参加。理工系へ進む学生の減少、相当のコストと時間を要する等、この分野での課題が指摘されながらも、「ものづくりにとって日本ほど恵まれた環境はない」（荒川氏）といったポジティブな意見も多く出た。「少人数で成長するためには大企業との連携が有効」（飯塚氏）との観点から、踏み込んだ議論が行われた。



セッションAには、技術系の参加者が集合。新しい技術革新の柱となるベンチャーへの挑戦を促した。



プレセッションでは、ザインエレクトロニクスの歩みを踏まえ、活発な議論が行われた。

一方セッションBには、金融、旅行、保育・介護、小売りといったサービス業の分野から、木村剛氏、澤田秀雄氏、中村紀子氏、新浪剛史氏という多彩な顔ぶれがパネリストとして参加。各氏の起業の経緯から、起業時の苦勞、成功への転機、起業後の課題、市場変化の見極めなどについて白熱した議論が行われ、起業する意味、起業への覚悟を問い掛けた。



セッションBでは、多彩な経歴を持つパネリストたちの白熱した議論に、幅広い世代の参加者が耳を傾けた。

パネリストのコメントから (50音順)



荒川 亨氏
ACCESS 取締役社長

1959年生まれ。79年荒川設計事務所設立。84年アクセス設立。96年同社を株式会社に改組し、代表取締役に就任。2002年経済同友会入会。

先の見えない時代には手早く利益を出しやすいサービス業等に食指が動きがちだ。しかし、中小企業のものづくりを評価し、継続させていく仕組みは整っており、**実は日本ほど環境が整っている国はない。**ただし、評価をする大企業のレベルも高いので、起業するならばそれを超える高いスキルが必要となる。

飯塚 哲哉氏

ザインエレクトロニクス 取締役社長／
新事業創造推進フォーラム 委員長

1975年東芝入社。91年ザイン・マイクロシステム研究所設立、代表取締役就任（2000年ザインエレクトロニクスに吸収）。2003年経済同友会入会。

“ベンチャーは拝金主義！”という声には反対だ。**大企業とベンチャー企業の両輪が元気で、初めて日本経済は発展する。**しかし、就職戦線は売り手市場であるにもかかわらず安定志向が強く、大企業では買い手市場が続いている。キャリア選択肢の豊かさが、国の豊かさを測る物差しと考えれば、日本はまだ脆弱な状態にある。





金丸 恭文氏

フューチャーシステムコンサルティング 取締役会長兼社長／副代表幹事

1954年生まれ。神戸大学工学部卒業後、TKC入社。89年フューチャーシステムコンサルティング設立。99年経済同友会入会。

今日のように**変化の激しい時代には、俊敏性が付加価値となる**。起業直後は、信用リスクとキャッシュの大切さを思い知らされた。また、起業したいだけではダメ。未来への志と情熱も必要だ。起業前にワンクッションとして転職してみるのもひとつの選択肢。起業パターンに王道はないが、始めない限りは、何も始まらない。



斎藤 博明氏

TAC 取締役社長／副代表幹事

1951年生まれ。75年東北大学経済学部卒業。78年、公認会計士2次試験に合格。80年TAC設立、取締役社長に就任。99年経済同友会入会。

これまであったやり方で起業すると、負ける。たとえ起業できたとしても、最初はうまくいかないことが多い。それゆえ、自分の才能を総動員し、どの分野を選ぶか、ライバルにどうすれば勝てるかなどを分析し、**自分なりの“勝つための仕組み”を考えることが重要だ**。分析の仕方を間違えると、いつまでもうまくいかない。



澤田 秀雄氏

エイチ・アイ・エス 取締役会長／新事業創造推進フォーラム 副委員長

1980年インターナショナルツアーズ（現エイチ・アイ・エス）設立、取締役社長に就任。96年スカイマークエアラインズ設立。99年証券業に参入。96年経済同友会入会。

会社が社会的な信用を得るためには、**日々研鑽を積みつつ、正々堂々とした気持ちを持って継続することが重要**。「石の上にも三年」の精神で、3年間は継続すべき。私の場合は、申し込みの電話が鳴らない日々を耐えた後、当社のツアーを利用した人からの口コミで評判が広まって、事業がブレイクスルーした。



新浪 剛史氏

ローソン 取締役社長兼CEO

1959年生まれ。81年三菱商事入社。2002年ローソン顧問、次いで代表取締役社長執行役員に就任。2005年経済同友会入会。

大きく市場が変化する時代、逆風をプラスに変えていく必要がある。コンビニ業界も忙しい若者だけでなく、年配で時間のある人が頻繁に利用するようになり、消費パターンが変化している。**起業家は、人まねではなく、常に行動しながら自分で考えていかなければならない**。肌感覚を信じて、徹底的にやるべきだ。

木村 剛氏

フィナンシャル 取締役社長

1962年生まれ。'85年日本銀行に入行。98年KPMGフィナンシャルサービスコンサルティング（現：フィナンシャル）を設立、代表取締役社長に就任。2001年経済同友会入会。

現在、当社はコンサルティング・出版・銀行という金融を核としたコングロマリットを形成しているが、最初にコンサルティングを始めたとき、自分の視線で事業をやっている間は軌道に乗らなかった。ただひとつのメルクマールは、「**お客さまが評価してくれるかどうかがお金をいただけるかどうか**」だと思う。



酒井 清氏

リコー 取締役専務執行役員 CTO

東京工業大学大学院工学研究科修士課程修了。1970年リコー入社。96年取締役。99年研究開発本部長兼画像技術開発本部長。2000年執行役員。2002年常務取締役、上席執行役員。2005年常務執行役員。2006年6月より現職。

産業構造が変わるたび、旧産業は危機にさらされてきた。革新的アイデアは欧米、ものづくりは日本と言われてきたが、現場が日本から離れることで、ものづくりの弱体化が懸念されている。現在、ベンチャーの成功は米国が圧倒的だが、成功モデルは10～15年と続かない。**知恵を結集し、日本型モデルを考えていくことも必要だ**。



中村 紀子氏

ポピンズコーポレーション 代表取締役／新事業創造推進フォーラム 副委員長

1973年テレビ朝日にアナウンサーとして入社。76年退社し、フリーに。87年ジャフィ・サービス（現ポピンズコーポレーション）設立。94年経済同友会入会。

子育てのために退社し、家庭でTVを見る側になって、社会の動きからどんどん取り残されていくような気持ちになった。3年後に復帰してみて、**日本という国は女性が子供を持って仕事をしようとする時に、子育てを支援する仕組みがない国だということを痛感**。10年間、徹底的に勉強した後、子育て支援の会社を起業した。



山田 眞次郎氏

インクス 代表取締役 CEO

1949年生まれ。74年三井金属鉱業入社。88年デトロイト支店設立、初代所長就任。90年退社、同年インクス設立。

日本のものづくりは大きな変革期にあり、従来の技術とIT系の新しい技術との融合が求められている。その意味では、**新たにベンチャーに挑戦する人にとって大きなチャンス**と言える。ただし、大企業のレベルも高く、彼らが使いたいと思うような“世界初”の技術を持たないと、ベンチャー企業としての成長は期待できない。



自己実現の選択肢として
大学生に起業を啓蒙

大学生の起業意識を醸成する「カレッジベンチャーフォーラム」が、11月3日、東京・学士会館で開催された。「起業のススメ」われわれの転機苦しみ・成果」と題したパネルディスカッションと交流会を通じて、進路選択の分岐点に立つ若者を啓蒙した。

本年度は、「特定の大学によらず、多くの大学からの参加を促したい」（飯塚委員長）との狙いから、特定のキャンパスを離れてよりオープンな形態で開催し、20を超える大学から50名が参加した。また、本年度より、カレ

ジベンチャーフォーラムの参加者もメインプログラムへの応募が可能になった。

北城代表幹事の挨拶に続き、飯塚哲哉氏、佐藤俊和氏、中村紀子氏、中原隆志氏、矢内廣氏、和田成史氏の6人が登壇し、パネルディスカッションが行われた。

前半は、仕事の内容、起業に至る経緯などを中心に討論を展開。国費留学生として来日した中原氏は、「中国に戻る予定だったが、天安門事件を機に、日本企業へ就職。技術を身につけた後、一国一城の主になりたいと思い、起業した」という。一方、矢内氏は、「若者にしか分からない世界を、大人が気づく前に形にしてしまおうとの思いから、大学4年時に仲間と情報誌を創刊した」と語った。

話題が起業後の壁、課題等に移ると、「プログラム好きの仲間が集

まって起業したが、軌道に乗った頃、ビジネスの方向性を見失いかけた」という佐藤氏の他にも、企業のビジョン、資金や人材確保、法規制等で苦労したという体験談が語られた。また、飯塚氏は「未だに安定志向が強く、人材の流動性が少ない日本の特殊性」を指摘し、男性および女性の意識改革の必要性を強調。中村氏も、「社会が悪いと言う前に、自分自身を変えることによってキャリアアップさせていくことが大切」と、子育てを経て起業した女性の視点から飯塚氏の意見を後押しした。



パネリストはパネルディスカッション終了後の交流会にも出席。学生との交流を積極的に行った。



北城代表幹事は、全てのシンポジウムに出席。新事業創造の重要性を聴衆に熱く語りかけた。



▶ コーディネーター 和田 成史氏

オービックビジネスコンサルタント 取締役社長／新事業創造推進フォーラム 副委員長
立教大学経済学部卒業。1980年公認会計士・税理士登録。同年オービックビジネスコンサルタント設立、代表取締役就任。2003年経済同友会入会。



飯塚 哲哉氏

ザインエレクトロニクス 取締役社長／新事業創造推進フォーラム 委員長

1975年東芝入社。91年ザイン・マイクロシステム研究所設立、代表取締役就任（2000年ザインエレクトロニクスに吸収）。2003年経済同友会入会。



佐藤 俊和氏

ジョルダン 取締役社長／新事業創造推進フォーラム 副委員長

1976年東京大学工学系大学院修士卒業。同年エス・ジー入社。79年ジョルダン情報サービス（現ジョルダン）設立取締役社長就任。2003年経済同友会入会。



中原 隆志氏

キャセイ・トライトック 代表取締役／新事業創造推進フォーラム 副委員長

1980年中国政府第一期国費留学生として来日。91年松下電送システムに入社。95年キャセイ・トライトック代表取締役就任。2003年経済同友会入会。



中村 紀子氏

ポピンズコーポレーション 代表取締役／新事業創造推進フォーラム 副委員長

1973年テレビ朝日にアナウンサーとして入社。76年退社し、フリーに。87年ジャフィ・サービス（現ポピンズコーポレーション）設立。94年経済同友会入会。



矢内 廣氏

びあ 取締役会長兼社長／新事業創造推進フォーラム 副委員長

72年月刊情報誌「びあ」を創刊。73年中央大学法学部卒業後、74年びあ設立、代表取締役社長に就任。88年経済同友会入会。

起業に不可欠な要素を 起業家・経営者が伝授

シンポジウムを通じて起業への興味、起業への意を強くした個人には、ネクストステップとして少人数寺子屋方式のメインプログラム（起業塾）を用意している。起業家・経営者が心構えや志など、起業に最も重要な要素を直接伝授する。

起業へのインキュベーション機能を担うメインプログラムは、実践的なノウハウやハウツーを教えるものではなく、起業のための心構えや志の指導が中心となる。受講生によるビジネスプランのプレゼンテーションに基づき、講師からの評価が寄せられ、その後、全体ディスカッションが行われる。

2006年4月～6月に行われた第2期メインプログラムは7名（平均年齢33.6歳）が受講。岩田彰一郎氏が全3回のコーディネーターを

務め、講師として荒川亨氏、木村剛氏、平野正雄氏、藤島基照氏（パルコスペースシステムズ取締役社長）、松井道夫氏が参加した。

プログラムでは、受講者がビジネスプランを発表すると、講師からブランドの重要性、価格・ターゲット設定の必要性などが指摘され、ビジネスに対するバランス感覚や意志といった根源的な問題まで、様々な意見が寄せられる。また、その後のフリーディスカッションでも、踏み込んだ厳しい意見が飛び交う。受講者はこうした過程を通じて鍛えられ、起業のタイミングやアイデアの重要性、一歩踏み出す勇気や志といった、起業に不

可欠な要素を身につけていく。

さらに、優れたビジネスプランに対しては、起業家・経営者が個人の資格・責任で個別にエンジェル、メンターとなり、継続的な支援が行われる場合もある。

現在、第1期生からは4名、第2期生からは2名が起業。来春開催される第3期メインプログラムでは、例年以上に多彩な分野の講師陣が予定されている。

Next Step

同友会起業フォーラム

メインプログラム

同友会起業フォーラム・メインプログラム起業実績

（2006年9月27日現在）

期	応募総数	書類選考合格者	インタビュー審査合格者	起業
第1期	75	41	9 (1)	4 (0)
第2期	60	18	7 (4)	2 (2)
計	135	59	16 (5)	6 (2)

*カッコ内は女性の数

2006年度 メインプログラム 予定されている主な講師陣（50音順・敬称略）

荒川 亨
（ACCESS 取締役社長）

飯塚 哲哉
（ザインエレクトロニクス 取締役社長）

岩田 彰一郎
（アスクール 取締役社長兼CEO）

金丸 恭文
（フューチャーシステムコンサルティング 取締役会長兼社長）

木村 剛
（フィナンシャル 取締役社長）

斎藤 博明
（TAC 取締役社長）

佐藤 俊和
（ジョルダン 取締役社長）

澤田 秀雄
（エイチ・アイ・エス 取締役会長）

寺町 彰博
（THK 取締役社長）

中原 隆志
（キャセイ・トライテック 代表取締役）

中村 紀子
（ポピンズコーポレーション 代表取締役）

平野 正雄
（マッキンゼー・アンド・カンパニー・インク・ジャパン ディレクター）

松井 道夫
（松井証券 取締役社長）

矢内 廣
（びあ 取締役会長兼社長）

和田 成史
（オービックビジネスコンサルタント 取締役社長）
その他会員有志